

2020年(令和2年)4月3日(金曜日)

2020年(令和2年)4月17日(金曜日)

2020年(令和2年)4月24日(金曜日)



国があることの幸せ

麗澤(れいたく)大学で教鞭(きょうべん)を執る竹原茂氏(たけはら しげる) 旧名(ふるな)ワタナベウオンは、祖国(こくこく)ラオスの革命(かくめい)により亡命(めいめい)を余儀(あきら)なくされた後(のち)、難民(なんみん)として数々(いくつ)の苦難(くるなん)を味わ(あじ)い、悩(なや)んだ末(すえ)に日本(にっぽん)国籍(こくせき)を取得(きとく)しました。竹原氏(たけはら しげる)は言(い)います。「国家(こくか)が崩壊(くわくわい)すると国籍(こくせき)もなくなり、住(す)むべき場所(ばしょ)も失(う)せます。国籍(こくせき)がないというこは、戸籍(こせき)登録(ていじゆ)さえ受け付けてもらえないといふことを意味(いみ)するのです。渡航(わくかう)証明書(しやうめいしょ)をもらって外国(がいこく)で生活(せいかつ)をしていても、国(くに)の信用(しんよう)が

道徳で人と社会を幸せに

落ちているので、その国(くに)の国民(こくみん)というだけ(ただ)で信頼(しんらい)してくれず、就職(しゆく)する時(とき)にも条件(じょうけん)が不利(りやく)になってしま(い)います。(中略(ちゆうりやく) 祖国(こくこく)を失(う)つてみても、私(わたし)は国家(こくか)の恩恵(おんゑ)をいっそう強(こ)く感じるよう(よう)になりました」(『ラオス・日本(にっぽん)、アジア(あしや)に生(な)きる』麗澤(れいたく)大学(だいがく)出版(しゆばん)会(かい)。私(わたし)たちはふだん、国(くに)の存在(そんざい)をさほど意識(いしやく)せず(せず)に生活(せいかつ)していますが、竹原(たけはら)氏の言(い)葉(は)は「自(みづか)分の国(くに)があるこ(こと)の幸(さい)せ」を教(お)えてくれるのではな(な)いでしょうか。『ニューモラルの心(こころ)を育てる言葉(ことば)366日(ひ)』

掲載(こうがい)日から2日(にっぴ)間(かん)限定(げんてい)で10名(じゆ)様に**プレゼント!**
道徳(どうとく)を考(かんが)える月(げつ)刊誌(かんし)『ニューモラル』最新(さいしん)号(ごう)
住所(じゆず)・氏名(しな)・「房日新聞(ふじしんぶん)」を明記(めいき)の上(の上)、メール(まいる)または電話(でんわ)でお申(ま)し込(こ)みください。
公益財団法人(こういざいほうじん)モラロジー研究(けんきゆ)所(じよ) 〒277-8654 柏市(かし)光ヶ丘(ひかりがけ)2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155



失敗は次へのステップ

日常生活(にちじふせいかつ)の中で問題(もんだい)が生(な)じたとき、私(わたし)たちは必要(ひつや)以上に後悔(こうかい)や悲観(ひかん)をしたり、自暴(じぼう)自棄(じき)に陥(お)つたりしがち(ち)です。また、原因(げんいん)や責任(せきにん)の追及(しゆい)のみにとらわれ、自(みづか)分の正(ただ)しさ(さ)を主張(しやうぢやう)して他人(たにん)を責(せ)める場合(ばあひ)もあるで(あ)しょう。これ(こ)れでは問題(もんだい)が解決(かいげつ)しないばかりか、お互(たが)いに対(たい)する不満(ふまん)が募(も)り、事態(じたい)をますます悪化(あくわ)させること(こと)にもなり(なり)かね(かね)ません。失敗(しぱい)によつて気持(きもち)ちが落ち込(お)むのは仕方(じかた)のないこと(こと)です。し、問題(もんだい)を正(ただ)しく解決(かいげつ)し、同(おな)じ失敗(しぱい)

道徳で人と社会を幸せに

を繰(くり)り返(かえ)さないため(ため)にも、原因(げんいん)を究明(きゆめい)するこ(こと)は必要(ひつや)です。しかし、何(なに)より大切(たいせつ)なのは、その失(う)敗(ぱい)を受け(う)けとめる自(みづか)分(ぶん)自(みづか)身(み)の心(こころ)のあり方(ありかた)です。苦難(くるなん)を「自(みづか)分(ぶん)を次(つぎ)のステップ(すてっぷ)へと導(みち)いてくれる、絶好(ぜっこう)の成長(せいじやう)の機会(きかい)」と受けとめ(と)めるとき、それは「苦(くる)しみ」ではな(な)くなくな(な)っているの(の)ではな(な)いでしょうか。事態(じたい)の受けとめ方(かた)次第(しだい)で、失敗(しぱい)の経験(けいけん)もプラス(ぷらす)へと転化(てんわ)させるこ(こと)ができる(できる)のです。『ニューモラルの心(こころ)を育てる言葉(ことば)366日(ひ)』

掲載(こうがい)日から2日(にっぴ)間(かん)限定(げんてい)で10名(じゆ)様に**プレゼント!**
道徳(どうとく)を考(かんが)える月(げつ)刊誌(かんし)『ニューモラル』最新(さいしん)号(ごう)
住所(じゆず)・氏名(しな)・「房日新聞(ふじしんぶん)」を明記(めいき)の上(の上)、メール(まいる)または電話(でんわ)でお申(ま)し込(こ)みください。
公益財団法人(こういざいほうじん)モラロジー研究(けんきゆ)所(じよ) 〒277-8654 柏市(かし)光ヶ丘(ひかりがけ)2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155



自分の内にある「純金」

長年(ながねん)青少年(せいしやうねん)の教育(きやういく)に携(たず)わってき(き)た岩橋(いわはし)文吉(ぶんきち)氏(し)いわはしぶんきち九州(きゅうしゆ)大学(だいがく)名誉(めいよ)教授(けうじゆ)は、幕末(ばくまつ)に多(おほ)くの人材(じんざい)を育(そだ)てた吉田(よしか)松陰(まついん)(よしだしよういん)一八三〇(いちやうさんじゆ)一八五九(いちやうごじゆ)の事(こと)績(せき)から、次(つぎ)のよう(よう)に述(の)述(の)べます。

道徳で人と社会を幸せに

にたとえ、人(ひと)は誰(たれ)でもその内面(ないめん)に天性(てんせい)の純金(じゆんきん)を含(こ)んだ金(きん)の鉱石(こうせき)のよう(よう)だと説(と)いていま(いま)す。人(ひと)は誰(たれ)でも尊(た)げられね(ね)ばなら(なら)ないのは、それがただ(ただ)の石(いし)ころ(ころ)ではな(な)く内面(ないめん)に純金(じゆんきん)を含(こ)んだ金(きん)の鉱石(こうせき)だから(から)です」(『人(ひと)はなぜ勉(めい)強(きやう)する(する)のか』モラロジー研究(けんきゆ)所(じよ)私(わたし)たちは、自(みづか)分(ぶん)の内(うち)にある「純金(じゆんきん)」をみ(み)ずから見(み)つけ出(だ)し、それ(それ)を一生(いっしやう)かけて磨(こ)き上(あ)げ、その輝(かがや)きを社会(しゃかい)や人(ひと)のため(ため)に役立(やくだ)たせ(せ)てい(い)きたいもの(もの)です。『ニューモラルの心(こころ)を育てる言葉(ことば)366日(ひ)』

掲載(こうがい)日から2日(にっぴ)間(かん)限定(げんてい)で10名(じゆ)様に**プレゼント!**
道徳(どうとく)を考(かんが)える月(げつ)刊誌(かんし)『ニューモラル』最新(さいしん)号(ごう)
住所(じゆず)・氏名(しな)・「房日新聞(ふじしんぶん)」を明記(めいき)の上(の上)、メール(まいる)または電話(でんわ)でお申(ま)し込(こ)みください。
公益財団法人(こういざいほうじん)モラロジー研究(けんきゆ)所(じよ) 〒277-8654 柏市(かし)光ヶ丘(ひかりがけ)2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

「松陰(まついん)は、人(ひと)はど(ど)んな人(ひと)でも真実(まじつ)な人生(じんせい)を生(な)きるため(ため)に学問(がくもん)・勉学(めんがく)をす(す)べきである(である)との主張(しやうぢやう)に立(た)っていま(いま)した(した)が、その主張(しやうぢやう)は、天(あま)が各人(かくじん)すべて(すべて)に授(たま)けた『天性(てんせい)』を確(た)信(しん)し、これ(これ)を尊(た)重(じゆう)すること(こと)に基(もと)づいていま(いま)した(した)。(中略(ちゆうりやく) 松陰(まついん)はまた(また)この天性(てんせい)を純金(じゆんきん)

道徳で人と社会を幸せに

「道徳(どうとく)」教科(きょうこ)化(か)ーヒント(ひんと)の泉(いずみ)

掲載(こうがい)日から2日(にっぴ)間(かん)限定(げんてい)で10名(じゆ)様に**プレゼント!**
道徳(どうとく)を考(かんが)える月(げつ)刊誌(かんし)『ニューモラル』最新(さいしん)号(ごう)
住所(じゆず)・氏名(しな)・「房日新聞(ふじしんぶん)」を明記(めいき)の上(の上)、メール(まいる)または電話(でんわ)でお申(ま)し込(こ)みください。
公益財団法人(こういざいほうじん)モラロジー研究(けんきゆ)所(じよ) 〒277-8654 柏市(かし)光ヶ丘(ひかりがけ)2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)5月15日(金曜日)



「感謝する」という心の習慣

いつも感謝の心を抱(いだ)いている人は、心が安らかで、周囲の人々の心をも明るくすることが出来るものです。毎日を感謝の心で過ごすことができたなら、どれほど幸せな人生でしょう。

感謝の心は、自分の周りの人に対してだけでなく、モノに対しても向けることができます。「いつも感謝しています」「ありがとうございます」と、日々の生活を支えてくれている道具や用品に感謝をするのです。返答のない、一

道徳で人と社会を幸せに

方通行の感謝ですが、その心がけはモノのいのちを生かし、私たちの心にある感謝の種を育てていくことになります。いつも感謝するという、心の習慣をつくってみませんか。その習慣は、きつと日々の生活に潤いと温かさを与えてくれます。そして、私たちの人生さえも大きく変えていくのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる道徳」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)5月8日(金曜日)



「他人のため」は「自分のため」

鎌倉時代初期の禅僧道元(どうげん)二〇〇〇~二五三三の教えをまとめた『修証義(しゆじょうぎ)』の中に、「利陀(りた)を先とせば自らが利省(はぶ)かれぬべしと、爾(しか)には非(あら)ざるなり。利行(りぎよ)は一法(いつぽう)なり、普(あま)ねく自陀(じた)を利するなり」とあります。

私たちは、他人の利益を優先させれば、自分の利益が減ってしまうというように考えがちです。しかし、そもそも「他人のため」と「自分のため」を分けて考える

道徳で人と社会を幸せに

こと自体に誤りがあるのではないのでしょうか。人々に利益を与える行為は、それを行う本人にとっても「利行」です。自分と他人をも共に利するのです。

どんな仕事にも、それによって助かる人や喜んでくれる人が、必ず存在するでしょう。人の役に立つていると実感できれば、自分自身の喜びが生まれます。日々の仕事を、まず「人に喜ばれるように」という視点でとらえ直してみませんか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる道徳」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2020年(令和2年)5月22日(金曜日)

2020年(令和2年)5月29日(金曜日)



「植福」のすすめ

幸田露伴(こうだろはん 一八六七〜一九四七)は『努力論』の中で、幸福になるために「惜福(せきふく)・分福(ぶんぷく)・植福(しょくふく)」という生き方を説きます。これを説明するのに、露伴は「福」をリンゴの木にたとえて、次のように述べています。

毎年立派な実をつけるリンゴの木を、大切に管理して長持ちさせるのが「惜福」です。また実を身近な人に分け与えるのが「分福」です。そして「植福」とは、リンゴの種を蒔(ま)いて新



心がふれあう出会い

私たちは日常の中での「ふれあい」つまり家族や周囲の人々の何気ない言動や表情などを通して気持ちの交流の中で、愛情の確認をしながら生きています。人は、愛情に触れていないと生きていくことが不安になり、つらいとさえ感じるものです。そして心がふれあうと、勇気や優しさが胸の奥に湧(わ)き上がり、生きる力が満ちてきます。

人生は出会いと別れの繰り返しです。その中でキラリと光る、心に深く刻まれる出会いがあり

道徳で人と社会を幸せに

道徳で人と社会を幸せに

しい木を育てることでも、より多くの人に実が行き渡るようにすること。つまり天地の生々化育の作用を助け、人畜の福利を増進することが「植福」です。
植福——それは自分の持つ力や知恵や経験を生かし、仕事や義務、役割をきちんと果たして、未来の人々の幸福に貢献することといえるでしょう。それが、現代の社会を築いてきた先人たちの恩恵に報いることにもつながるのです。

ます。それは、大きな愛で包まれるような安心感に触れたときであり、また、自分の生き方や人生の指針となるものに触れたときであるといえるでしょう。
「心がふれあう出会い」は、荒すさんだ心を蘇(よみがえ)らせ、人がよりよく生きていくためのエネルギーを生み出します。まずは自分から、そうした出会いを生み出す努力をしていきたいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155